

伝統を「つなぐ」 全国高等学校文化連盟研究大会 徳島大会に参加して



気候も文化も伝統も、長野とは全く異なる徳島

12月6日より「第35回全国高等学校文化連盟研究大会 徳島大会」に参加しました。この大会は「創造性豊かな芸術文化活動を目指して」を主題に毎年この時期に全国を回り開催されています。全国高文連の上栝会長は「文化芸術活動は部活動で完結するものではない」とあいさつで述べられ、徳島の地でその意味を深く感じた気がしました。小さいころから阿波踊りの鉦と太鼓のリズムと三味線の音色で育った子どもたちは自然とその文化を自分のものとして誇りを胸に継承する心が養われ、また日本三大暴れ川と言われる吉野川から受ける恩恵に、その恵みに感謝をもつ心が自然と養われている姿を目の当たりにしました。やわらかい阿波の方言、踊り、文化、阿波藍そして地域の恵みを堪能し、伝統が繋がれていく様を感じた4日間でした。

長野県の企業を紹介する冊子「TUNAGU2024」が県下高校2年生全員に配布されています。表紙は本校2年生写真部 林君の作品。そして写真部のほかの生徒たちの作品も掲載されています。地域の良さを知り「つなぐ」、この冊子を利用し長野県が創る未来に皆さんも参画してほしいと願います。



阿波十郎兵衛屋敷での人形浄瑠璃。「農民劇場」など地域の人々が人形浄瑠璃を生活の娯楽として楽しむ文化がありました



小学校4年生の踊り子さん。有名連「天水連」と。

「TUNAGU2024」

